

阿蘇 2016 年 10 月 7, 8 日噴火の噴出物 (10 月 8 日調査)

(長谷中 利昭・理学部)

阿蘇中岳第一火口は 10 月 7 日 21 時 52 分に噴火し、火口の北東 8km の一の宮町で降灰が確認された。続いて、10 月 8 日 1 時 46 分に爆発的噴火が発生した。気象庁の職員による 10 月 8 日の上空からの観察では、灰色の変色域が火口の北西側で 1.6km、南西側で 1.0km に認められ、北東方向に延びていることがわかり、湯だまりが認められなかった(福岡管区気象台、阿蘇山の火山活動解説資料)。気象衛星による観測では 10 月 8 日の噴煙が高さ 11,000m に登ったことが確認された。

以上の噴火によって飛散し堆積した火山灰、噴石の調査を行ったので、その結果を報告する。

(1) いこいの村近くのセブンイレブンの駐車場

濡れた火山灰が一面の泥であった。前夜から放置されていた車は火山灰で覆われていた。



(2) 阿蘇青少年交流の家



施設前の広場には一面に噴石が散らばっていた。施設の南東端のベランダとその前の駐車スペースから最大径 8 cm の噴石を発見した。多くは数 cm あるいはそれ以下の火山礫である。噴石は、細粒物が欠けていることが特徴的であった()。また柱や壁に火山灰の「泥しぶき」がかかっていた。しぶきのかかり方から推定した給源方向は中岳より少し北にずれていた。灰白色で、微細な気泡を含むのか見た目

より少し軽い岩片、あるいは緻密な岩片が多かった。まれに火山灰泥の塊も見られた。2014 年 11 月～2015 年 5 月に噴出したスコリアとは異なる外観である。



(3) いこいの村南，モーモーフาร์ม竹原牧場前
道路上およびその脇に堆積した火山灰は，雨の影響もあるのか，一面の泥状態であった。



(4) 国道 57 号線，JR いこいの村東，ダイハツ販売店，阿蘇自動車学校。一面の泥状態。



(5) JR 阿蘇駅からの阿蘇登山道路，封鎖地点（往生岳北東の急カーブの 500m 北西）

柵の木材や鉄柱に火山灰泥が雨滴状に付着している。しぶきの形状から推定できる火山灰泥しぶきの給源方向は中岳より北にずれている。



(6) 阿蘇登山道路，往生岳北東の急カーブ地点，柵に付着した火山灰泥量は(5)地点より多い。



(7) 阿蘇市役所



窓ガラスに火山灰泥のしぶきが付いている。道路の鉄柵には火山灰がこびりついていた。

(8) 阿蘇神社境内



(9) 波野村, 道の駅, 神楽苑



板の台の上に付着した雨滴状の火山灰、道路上に見られる噴石、火山礫サイズの岩片と着地して潰れた火山豆石が認められる。駐車場で拾い集めた火山礫は最大径 2.5cm,多くは 0.5~1cm 径であった。礫種は青少年交流の家で見たものと同じであった。